

# 従来のファイアウォールが ゼロトラストに適さない理由

現代のビジネスは、オフィス、飛行機、自宅、工場の現場など、あらゆる場所で行われています。アプリがクラウドでホストされたり、SaaS アプリとして直接ホストされるようになったりしたことで、インターネットが新しい企業ネットワークになりつつあります。ゼロトラストアプローチでユーザー、データ、アプリを保護しようとする際、従来のファイアウォールが足かせとなることがあります。以下のいずれかの症状が見られる場合、必要な対策を検討、実施することをお勧めします。

## 症状 #1

### 水平移動が 検出されない

ユーザーがオンサイトで作業し、従来のファイアウォールで保護されたデータセンターにのみアプリが存在するという状況下では、信頼は暗黙のうちに与えられていました。ところが、脅威アクターがユーザーを侵害したり、設定ミスが悪用したりしてネットワークに侵入した場合、リアルタイムでアクセスを遮断して水平移動を阻止することはほぼ不可能です。



## 症状 #2

### クラウド資産がリスク にさらされている

仮想ファイアウォールはパブリッククラウドでVMインスタンスとして動作するため、すべての送受信ポイントにインスタンスを展開する必要があります。従来のファイアウォールがネットワーク境界を保護するために設計されていた場合、脅威アクターはクラウドの弱点を悪用して、ワークロードや機密データの完全性とセキュリティ態勢を侵害することができます。



## 症状 #3

### 寛容なポリシー（一時的なものまたは 忘れられたままのもの）に依存している

イノベーションを迅速に進めたいアジャイル開発者は、プロジェクトを加速するためのアクセスを入手する目的で、IT管理者やセキュリティ管理者に「一時的に」非常に寛容なポリシーを求めることがあります。そして、その設定が忘れられたままになることは少なくありません。また、従来のファイアウォールは、観察可能な動作属性や環境属性に基づく動的なポリシー変更を簡単に適用できません。



ネットワーク管理者の **85%** が、ファイアウォール機能はクラウド経由で提供されるのが最適であると考えています。<sup>1</sup>

従来のファイアウォールや次世代ファイアウォールがなぜゼロトラストに適さないのか、またクラウドネイティブファイアウォールがなぜ求められるのか。その答えを導く7つの理由をご確認ください。

[eBook をダウンロード](#)